

2018年度 日本気象学会東北支部第1回理事会 議事録

日時：2018年6月11日（月）15時00分～16時30分

場所：仙台管区気象台第1会議室

出席：大林、青木、山崎、菅原、杉山、折坂、西尾、加藤（以上理事）、吉田（会計監査）、
岩淵、淵上、中川（以上幹事）（敬称略）

司会：加藤理事

議題1. 日本気象学会東北支部第31期役員選挙の結果

- ・議案のとおり。

議題2. 新支部長及び新常任理事の互選

- ・事務局(案)のとおり承認した。
- ・第31期の支部長として、引き続きよろしく願います。なお、幹事を東北大の岩淵先生と仙台管区気象台の淵上調査官、中川技術専門官にお願いすることとする。（大林）

議題3. 事業等の担当理事の選任

- ・事務局(案)のとおり承認した。

議題4. 2017年度事業報告及び会計報告

(1) 2017年度事業報告

- ・議案を承認した。

1) 東北支部気象講演会

- ・新しい理事の方もおられるので補足すると、気象講演会は、各県持ち回りで行っており、去年は秋田で開催した。秋田大学のホールをお借りし、多くの方が来られてなかなか好評であった。（大林）

2) 支部強化基金による活動

- ・補足すると、今年3月に行ったサイエンスカフェは、メインのターゲットは高校生で、気象台から話題提供を行いディスカッションする形で行った。（大林）

3) 東北支部気象研究会

- ・2年ほど前から、気象台と学会の共催という形で行っている。気象台の職員としては、たくさんの方の前で発表する貴重な経験になっている。学生の方の発表もあるので、学会では予算の範囲内で旅費を補助している。（大林）

(2) 2017年度会計報告

- ・議案の通り。

議題5. 2017年度会計監査報告

- ・議案を承認した。

議題6. 2018年度事業計画及び予算

(1) 2018年度事業計画

- ・議案を承認した。

1) 東北支部気象講演会

- ・今年度は山形で行うが、テーマ・開催日時については未だ決まっておらず、山形地台が担当の青木理事に相談しつつ決めていくこととなる。山形地台では、テーマは、昨年の福井の大雪災害を踏まえて、大雪に関することを検討中であり、講師については、部外の方と気象台の2名を考えているとのこと。(淵上)
- ・実施時期が秋以降なので、テーマとして、大雪の話題は良いと思う。(大林)
- ・山形地台に今後詳細を詰めていただく。(淵上)

3) 東北支部だより

- ・担当の山崎理事と相談の上進めたい。第87号には今回の選挙を載せることを考えている。発行は8月か9月を見込んでいる。(淵上)
- ・支部だよりについては、電子化という懸案があった。(青木)
- ・まず会員のメーリングリストへの登録を増やすことを考え、当面はメーリングリストでのお知らせや支部だよりのダウンロードといった形で進めていくという話になっていた。郵送でなくても良い方にはダウンロードしてもらうという形にするのが次の段階で、一気には無理だが、メーリングリストをより有効に使用していくという形で進めていければと思う。(大林)
- ・将来的な会員数の減少を見込んで、収支のバランスをとるため、経費削減として電子化の話がでてきたと思うが、どうしても紙媒体で欲しいという方もいるので、全て電子化して紙媒体を廃止するのはまだ先かと。様々な状況を想定し、今後どのようにするか考える必要があると思う。(青木)
- ・補足すると、現在、編集や印刷、発送作業は業者発注にしている。編集と印刷に係る経費はそれほどではなく、発送の経費がかかっている状況。(淵上)
- ・印刷は、多少数を減らしても経費的にはあまり変わらない。(山崎)
- ・ちなみに今年4月10日現在のメーリングリストの登録者数は昨年2月と比べて微増となっている。(淵上)
- ・引き続きメーリングリストに登録してもらうよう会員に働きかけ、紙媒体から電子媒体への移行を探る方向で進めていくということになる。(加藤)

5) 支部強化基金による活動

7月15日に行う予定のサイエンスカフェの広報の方針について

- ・配布するチラシについて、平成28年度はおよそ300部、29年度はその倍を刷ったが、今年度は準備期間が短いということもあり、28年度と同程度の300部を印刷し、関係機関や学校に配布する予定。また、サイエンスディには協賛枠というのがあり、当日配布されるパンフレットに60mm×60mm枠で宣伝でき、1枠2万円で、1枠ないし2枠を確保して宣伝したいと考えており、効果的に広報ができればと考えている。(淵上)
- ・サイエンスディには何千人という方がこられるので、宣伝効果はあると思う。(杉山)
- ・菅原理事は学校の先生方とのネットワークはあるのか。(大林)
- ・サイエンスディについては宮城教育大でどの程度関わっていたかちょっと経験が無いのだが、大学生には宣伝したいと思った。学校については教育委員会を通す仕組みがあるので、直接というのは無い。(菅原)
- ・昨年度は教育委員会の後援を頂いたが、今年度はサイエンスディの対象が小中学生や親御さんということで、高校生よりは少し下の学年の子が来るのが想定されるので、今回は後援については頂か

ないということで考えている。昨年度は3月ということもあり、宣伝のわりに高校生の人数がそれほどではなかったが、今年度はサイエンスディでの広報に期待しているところ。(杉山)

- ・集客についてはあまり心配が無いということによいか。(加藤)
- ・サイエンスディは色々な所をみていく人が多く、その中で2時間居続けてくれる人がどれだけ来てくれるかということが心配ではある。温暖化に興味がある人が来てくれることを期待しているが、何かお知恵があれば頂きたい。(杉山)
- ・何かあれば事務局などにお知らせ頂きたい。(加藤)

6) 日本気象学会奨励賞などへの推薦

- ・研究を職務としていない環境で研究されている方や、気象の教育をされている方を対象にしている。もし対象になりそうな方が居られたら担当の西尾理事にお知らせ頂ければと考えている。(大林)

(2) 2018年度予算案

- ・議案を承認した。

一般会計について

- ・一般会計で事務費が昨年度と同額の5万円が計上されているが、昨年度の決算をみると、4千円ほどしか支出されていない。実際はどのような支出なのか。(山崎)
- ・事務費は主に郵送費などに充てられている。(中川)
- ・昨年度の利用実績は4千円程度だが、事務用品の購入などにより、年毎の変動が大きいため、昨年度と同程度の予算額とした。今年度の実績も小さければ縮小等検討したい。なお、PC購入の必要がある場合など、もっと大きな額で予算を計上する年もある。(事務局)

支部強化基金について

- ・支部強化基金について、予報士会から2万円を分担金として頂いているが、サイエンスカフェでの予報士会の人たちや杉山理事の多大な労力を考えると、頂いていいものなのか。全国的にみて他の支部でも分担金はあるのか。(青木)
- ・他の支部についてはわからないが、サイエンスカフェは共催という形で行っていて、予報士会としては一定のエネルギー的にも金銭的にも負担すべきという考え方でやっている。予報士会の実績としても報告させて頂いているので、特に問題はないと考えている。(杉山)
- ・学会から予報士会へ何か貢献等はしているのか。(加藤)
- ・气象台からは講師の方に来てもらうことがある。学会との主な接点はサイエンスカフェで、予報士会は学会とは対等ということで、金銭の面と労力の面で協力させて頂いているところである。(杉山)
- ・引き続きご協力をお願いします。(加藤)

議題7. その他

(2) 第39期第2回評議員会 出席概要報告

- ・この評議員会は学会の運営に関してテーマを決め有識者の方々に意見を伺うというもの。今回は、観測という気象学の基礎的な基盤が、近年資金面等から厳しくなっており、学会としては観測の重要性をアピールする必要があると考え、まず学会員向けとして理事会で文書をまとめ、有識者の方々のご意見を伺った。(大林)
- ・評議員会の印象としては、若手研究者で観測をやる人が少なくなっており、既存のデータを解析していく方向に進みつつあるが、観測を行い、データを取得することはとても重要ということ、学会としてアピールする必要があると感じた。秋季大会では観測に関するシンポジウムがあるので、その前後に学会の文書としてまとめて、「天気」に掲載する流れになっている。(大林)

(3) 事務局から

- ・議案を承認した。

メーリングリストについて

- ・新しく入会した方にはメーリングリストに入ってもらっているのか。(山崎)
- ・メールアドレスを記入しないで入会することも出来るようなので、入らない方もいると思う。(漵上)
- ・よほどの事情が無い限り入会時にメールアドレスを登録していただくという形もあるのではと思う。(山崎)

全体を通しての質疑

学会員の推移について

- ・学会の全般的な課題として、会員数の減少がある。気象台職員の会員数についても減少している状況で、気象台の職員数自体が減少していることや、気象台の仕事として、気象の解析から防災にシフトしてきていることも背景にあるのではと思っている。(大林)
- ・気象台では研究発表会を学会と一緒にしているので、そういった所でサイエンスに触れていってもらえればと思う。(大林)
- ・学生でも最近はやや学会に入会する人が少なく、博士課程に進む人が減ってきていることも背景にあると思う。学会で発表するという学生は入会してくれたりする。(山崎)
- ・支部研究会では、仙台以外から来られる学生さんには旅費を補助していて、それがきっかけで学会に入った学生さんもここ数年で数名おられたので、そういった機会を持ってもらうことは重要だと思った。(大林)

以上